

大 阪 市 の 推 計 人 口
(平成20年10月1日現在)

平成20年11月

大 阪 市

平成20年10月1日現在大阪市推計人口 結果の概要

平成20年10月1日現在大阪市推計人口の結果がまとまりましたので概要をお知らせします。

目 次

1	人 口 総 数	1
2	男 女 別 人 口	3
3	世 帯 数	4
4	区 別 人 口	5
5	区 別 世 帯 数	8
6	人 口 異 動	10
7	年 齢 別 推 計	18

平成 20 年 10 月 1 日現在大阪市推計人口結果

1 人口総数

表 1 - 1 人口の推移（昭和40年～平成20年）

9 年連続の増加

平成 20 年 10 月 1 日の大阪市の人口は 265 万 2099 人で、前年（平成 19 年 10 月 1 日）と比べると 8294 人（0.3%）の増加となった。

本市の戦後の人口は、昭和 40 年の 315 万 6222 人をピークに昭和 57 年まで減少を続けたが、昭和 58 年に 18 年ぶりに増加に転じた後、昭和 62 年まで微増傾向を示していた。

その後、昭和 63 年からは平成 7 年の阪神・淡路大震災による一時的な増加を除き、バブル経済などの社会経済情勢の影響を受けて減少が続いた。

しかし、平成 12 年に再び人口増加に転じ、その後 9 年連続の増加となっている。

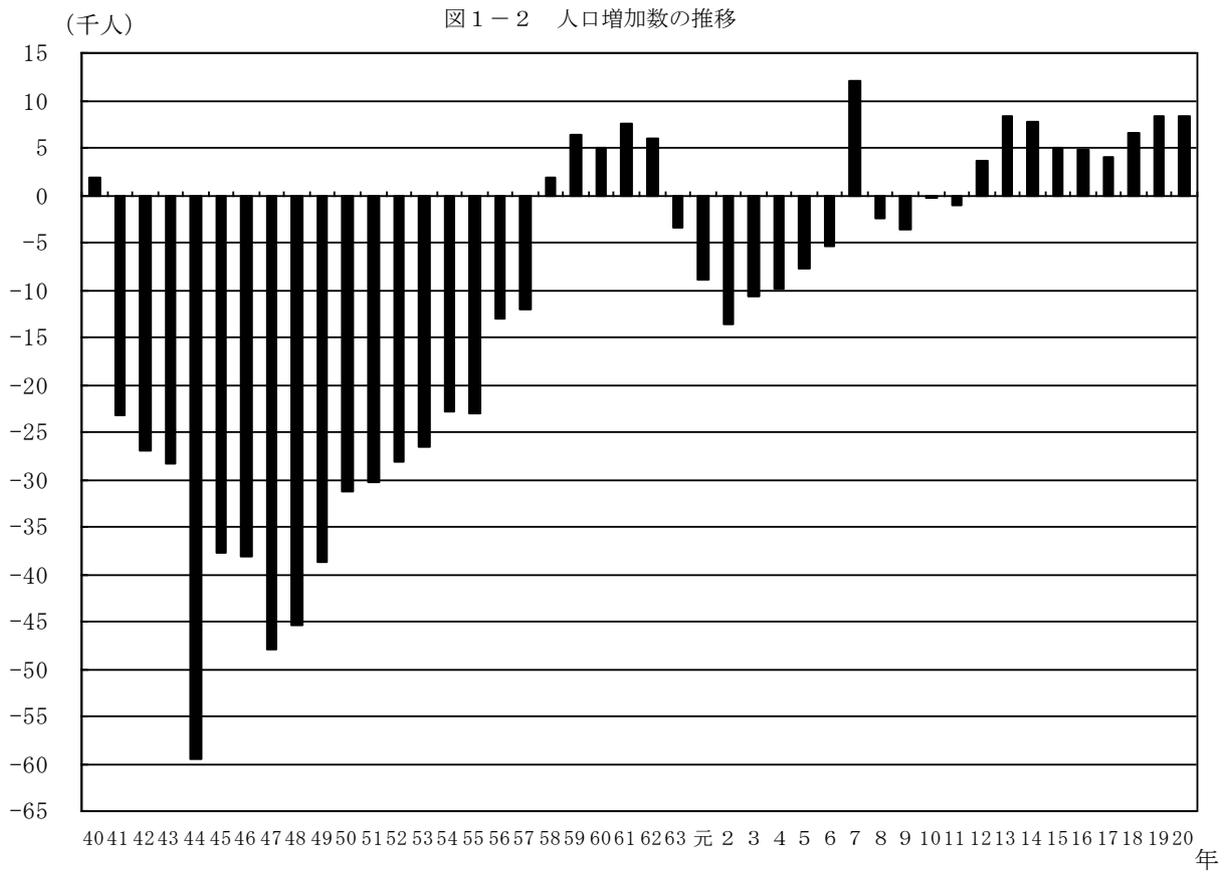
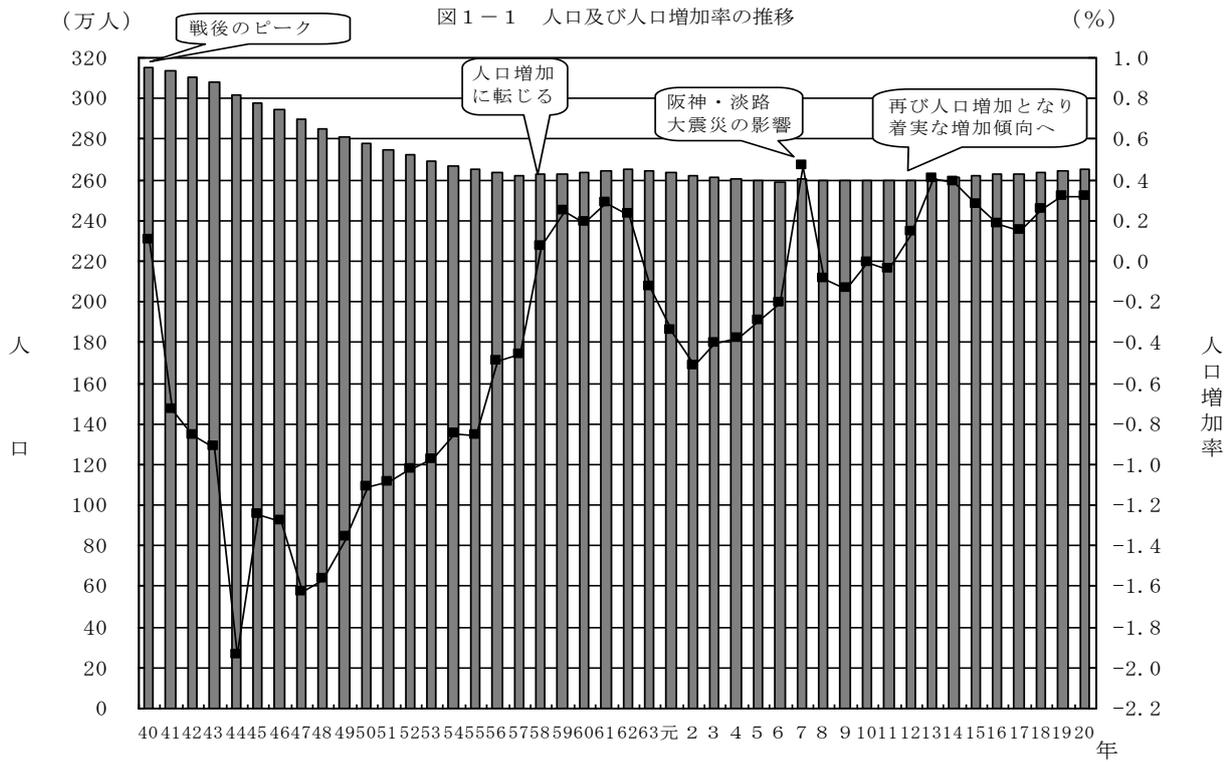
（表 1 - 1、図 1 - 1、1 - 2）

年次	人口 (人)	増減数 (人)	増減率 (%)
昭和40年	3,156,222	1,851	0.1
41年	3,133,084	-23,138	-0.7
42年	3,106,085	-26,999	-0.9
43年	3,077,751	-28,334	-0.9
44年	3,018,175	-59,576	-1.9
45年	2,980,487	-37,688	-1.2
46年	2,942,404	-38,083	-1.3
47年	2,894,509	-47,895	-1.6
48年	2,849,102	-45,407	-1.6
49年	2,810,322	-38,780	-1.4
50年	2,778,987	-31,335	-1.1
51年	2,748,781	-30,206	-1.1
52年	2,720,651	-28,130	-1.0
53年	2,694,091	-26,560	-1.0
54年	2,671,163	-22,928	-0.9
55年	2,648,180	-22,983	-0.9
56年	2,635,211	-12,969	-0.5
57年	2,623,124	-12,087	-0.5
58年	2,624,911	1,787	0.1
59年	2,631,317	6,406	0.2
60年	2,636,249	4,932	0.2
61年	2,643,780	7,531	0.3
62年	2,649,758	5,978	0.2
63年	2,646,399	-3,359	-0.1
平成元年	2,637,434	-8,965	-0.3
2年	2,623,801	-13,633	-0.5
3年	2,613,199	-10,602	-0.4
4年	2,603,272	-9,927	-0.4
5年	2,595,584	-7,688	-0.3
6年	2,590,270	-5,314	-0.2
7年	2,602,421	12,151	0.5
8年	2,600,058	-2,363	-0.1
9年	2,596,502	-3,556	-0.1
10年	2,596,276	-226	-0.0
11年	2,595,155	-1,121	-0.0
12年	2,598,774	3,619	0.1
13年	2,607,059	8,285	0.3
14年	2,614,875	7,816	0.3
15年	2,619,955	5,080	0.2
16年	2,624,775	4,820	0.2
17年	2,628,811	4,036	0.2
18年	2,635,420	6,609	0.3
19年	2,643,805	8,385	0.3
20年	2,652,099	8,294	0.3

1 **太字**は国勢調査結果

その他は各年10月1日の推計人口

2 国勢調査以外の年については国勢調査結果により修正を行っているため、増加人口と後述の人口異動の増加人口とは一致しない。



2 男女別人口

人口性比が低下傾向から横ばいに

平成20年の人口を男女別にみると、男性が129万975人、女性が136万124人で、女性が男性を6万8149人上回っている。

男女別の人口を平成19年と比べると、男性が4349人（0.3%）増、女性が3945人（0.3%）増とそれぞれ増加しており、男性は9年連続、女性は11年連続の増加となっている。

人口性比（女性100人に対する男性の数）は、昭和45年までは100を超えていたが、昭和46年に100を切ってから概ね低下傾向にあり、平成17年に94.9となって、その後はほぼ横ばいで推移している。（表2-1）

表2-1 男女別人口の推移（昭和40年～平成20年）

年次	男		女		性比
	(人)	増減数(人)	(人)	増減数(人)	
昭和40年	1,598,376	-3,354	1,557,846	5,205	102.6
41年	1,583,931	-14,445	1,549,153	-8,693	102.2
42年	1,566,854	-17,077	1,539,231	-9,922	101.8
43年	1,549,165	-17,689	1,528,586	-10,645	101.3
44年	1,515,848	-33,317	1,502,327	-26,259	100.9
45年	1,490,779	-25,069	1,489,708	-12,619	100.1
46年	1,469,226	-21,553	1,473,178	-16,530	99.7
47年	1,442,851	-26,375	1,451,658	-21,520	99.4
48年	1,417,812	-25,039	1,431,290	-20,368	99.1
49年	1,396,162	-21,650	1,414,160	-17,130	98.7
50年	1,378,287	-17,875	1,400,700	-13,460	98.4
51年	1,361,156	-17,131	1,387,625	-13,075	98.1
52年	1,345,569	-15,587	1,375,082	-12,543	97.9
53年	1,330,745	-14,824	1,363,346	-11,736	97.6
54年	1,317,708	-13,037	1,353,455	-9,891	97.4
55年	1,304,599	-13,109	1,343,581	-9,874	97.1
56年	1,296,515	-8,084	1,338,696	-4,885	96.8
57年	1,288,970	-7,545	1,334,154	-4,542	96.6
58年	1,288,184	-786	1,336,727	2,573	96.4
59年	1,290,051	1,867	1,341,266	4,539	96.2
60年	1,295,771	5,720	1,340,478	-788	96.7
61年	1,299,999	4,228	1,343,781	3,303	96.7
62年	1,303,574	3,575	1,346,184	2,403	96.8
63年	1,302,588	-986	1,343,811	-2,373	96.9
平成元年	1,298,782	-3,806	1,338,652	-5,159	97.0
2年	1,292,747	-6,035	1,331,054	-7,598	97.1
3年	1,285,778	-6,969	1,327,421	-3,633	96.9
4年	1,279,109	-6,669	1,324,163	-3,258	96.6
5年	1,276,535	-2,574	1,319,049	-5,114	96.8
6年	1,273,114	-3,421	1,317,156	-1,893	96.7
7年	1,278,212	5,098	1,324,209	7,053	96.5
8年	1,276,407	-1,805	1,323,651	-558	96.4
9年	1,273,988	-2,419	1,322,514	-1,137	96.3
10年	1,273,255	-733	1,323,021	507	96.2
11年	1,272,025	-1,230	1,323,130	109	96.1
12年	1,273,121	1,096	1,325,653	2,523	96.0
13年	1,275,786	2,665	1,331,273	5,620	95.8
14年	1,278,203	2,417	1,336,672	5,399	95.6
15年	1,279,217	1,014	1,340,738	4,066	95.4
16年	1,280,023	806	1,344,752	4,014	95.2
17年	1,280,325	302	1,348,486	3,734	94.9
※18年	1,283,390	3,065	1,352,030	3,544	94.9
19年	1,287,626	4,236	1,356,179	4,149	94.9
20年	1,291,975	4,349	1,360,124	3,945	95.0

太字は国勢調査結果

その他は各年10月1日の推計人口

※男女別人口については、平成19年から男女別の異動を反映させた推計方法へ変更している。平成18年の数値についても同様の推計方法による数値を記載しているため、平成18年公表値とは異なる。

3 世帯数

世帯数の増加、1世帯当たり人員の減少が続く

平成20年の世帯数は128万9388世帯で、1世帯当たり人員は2.06人となっている。

これを平成19年と比べると、1万5908世帯（1.2%）の増加となっており、昭和40年以降ほぼ毎年増加している。

1世帯当たり人員は一貫して減少を続けており、平成19年の2.08人から2.06人とさらに減少した。（表3-1）

表3-1 世帯数の推移（昭和40年～平成20年）

年次	世帯数 (世帯)		増減率 (%)	1世帯当たり 人員 (人)
	世帯数	増減数 (世帯)		
昭和40年	852,825	18,596	0.6	3.70
41年	864,808	11,983	1.4	3.62
42年	883,020	18,212	2.1	3.52
43年	890,519	7,499	0.8	3.46
44年	894,781	4,262	0.5	3.37
45年	891,966	-2,815	-0.3	3.34
46年	895,443	3,477	0.4	3.29
47年	895,939	496	0.1	3.23
48年	897,233	1,294	0.1	3.18
49年	900,614	3,381	0.4	3.12
50年	906,749	6,135	0.7	3.06
51年	911,339	4,590	0.5	3.02
52年	916,813	5,474	0.6	2.97
53年	923,680	6,867	0.7	2.92
54年	932,907	9,227	1.0	2.86
55年	938,541	5,634	0.6	2.82
56年	938,484	-57	-0.0	2.81
57年	942,369	3,885	0.4	2.78
58年	951,000	8,631	0.9	2.76
59年	963,689	12,689	1.3	2.73
60年	976,978	13,289	1.4	2.70
61年	995,605	18,627	1.9	2.66
62年	1,012,983	17,378	1.7	2.62
63年	1,025,942	12,959	1.3	2.58
平成元年	1,038,353	12,411	1.2	2.54
2年	1,050,560	12,207	1.2	2.50
3年	1,059,727	9,167	0.9	2.47
4年	1,070,412	10,685	1.0	2.43
5年	1,078,307	7,895	0.7	2.41
6年	1,086,726	8,419	0.8	2.38
7年	1,105,351	18,625	1.7	2.35
8年	1,116,813	11,462	1.0	2.33
9年	1,128,947	12,134	1.1	2.30
10年	1,141,825	12,878	1.1	2.27
11年	1,154,482	12,657	1.1	2.25
12年	1,169,621	15,139	1.3	2.22
13年	1,187,131	17,510	1.5	2.20
14年	1,203,898	16,767	1.4	2.17
15年	1,218,313	14,415	1.2	2.15
16年	1,232,982	14,669	1.2	2.13
17年	1,245,012	12,030	1.0	2.11
18年	1,260,991	15,979	1.3	2.09
19年	1,273,480	12,489	1.0	2.08
20年	1,289,388	15,908	1.2	2.06

太字は国勢調査結果
その他は各年10月1日の推計人口

4 区別人口

市域中心部で人口増加が続く

平成20年の人口を区別にみると、平野区が20万483人と最も多く、次いで東淀川区が17万7952人、淀川区が17万949人、城東区が16万4824人、住吉区が15万7085人と続いている。
(表4-1、図4-1)

この1年間の人口増加数を区別にみると、城東区が2060人と最も多く、次いで西区が1955人、中央区が1884人、福島区が1694人、北区が1558人など、市域中心部を中心に12区で増加している。人口増加率では、福島区が2.7%と最も高く、次いで中央区、西区が2.6%、天王寺区が1.9%、浪速区が1.7%など、人口増加数と同様に市域中心部で増加率が高くなっている。

一方、人口減少数では、住之江区が1455人と最も多く、次いで生野区が1109人、住吉区が812人、大正区が664人、西成区が556人と続いている。人口減少率では、住之江区が1.1%と最も高く、次いで大正区が0.9%、生野区が0.8%、旭区が0.6%、住吉区が0.5%と続いている。

(表4-1、4-2、4-3、4-4、図4-2)

表4-1 区別人口

区名	人口(人)		対前年(平成19年)	
	平成20年	19年	増減数(人)	増減率(%)
大阪市	2,652,099	2,643,805	8,294	0.3
北区	105,204	103,646	1,558	1.5
都島区	102,062	102,241	-179	-0.2
福島区	63,670	61,976	1,694	2.7
此花区	64,914	64,561	353	0.5
中央区	73,259	71,375	1,884	2.6
西区	78,342	76,387	1,955	2.6
港区	83,796	83,473	323	0.4
大正区	71,433	72,097	-664	-0.9
天王寺区	66,772	65,518	1,254	1.9
浪速区	57,936	56,953	983	1.7
西淀川区	96,142	96,147	-5	-0.0
淀川区	170,949	170,216	733	0.4
東淀川区	177,952	177,884	68	0.0
東成区	78,951	79,020	-69	-0.1
生野区	134,988	136,097	-1,109	-0.8
旭区	93,732	94,274	-542	-0.6
城東区	164,824	162,764	2,060	1.3
鶴見区	110,148	109,004	1,144	1.0
阿倍野区	107,779	107,855	-76	-0.1
住之江区	127,892	129,347	-1,455	-1.1
住吉区	157,085	157,897	-812	-0.5
東住吉区	133,985	134,158	-173	-0.1
平野区	200,483	200,558	-75	-0.0
西成区	129,801	130,357	-556	-0.4

各年10月1日現在推計人口

图4-1 区别人口（平成20年）

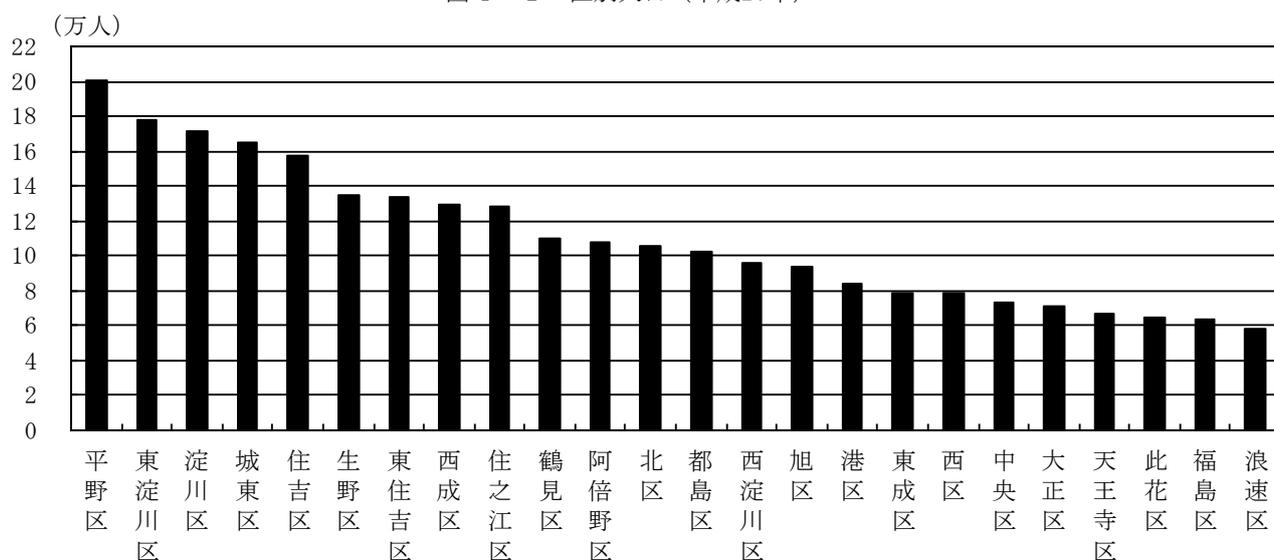


表4-2 人口増加数上位7区

順位	平成17年～18年		平成18年～19年		平成19年～20年	
	区名	増加数(人)	区名	増加数(人)	区名	増加数(人)
1	中央区	2,466	中央区	2,091	城東区	2,060
2	北区	2,135	西区	1,727	西区	1,955
3	西区	2,069	都島区	1,527	中央区	1,884
4	浪速区	1,808	鶴見区	1,361	福島区	1,694
5	淀川区	923	城東区	1,183	北区	1,558
6	都島区	883	北区	1,126	天王寺区	1,254
7	城東区	656	浪速区	971	鶴見区	1,144

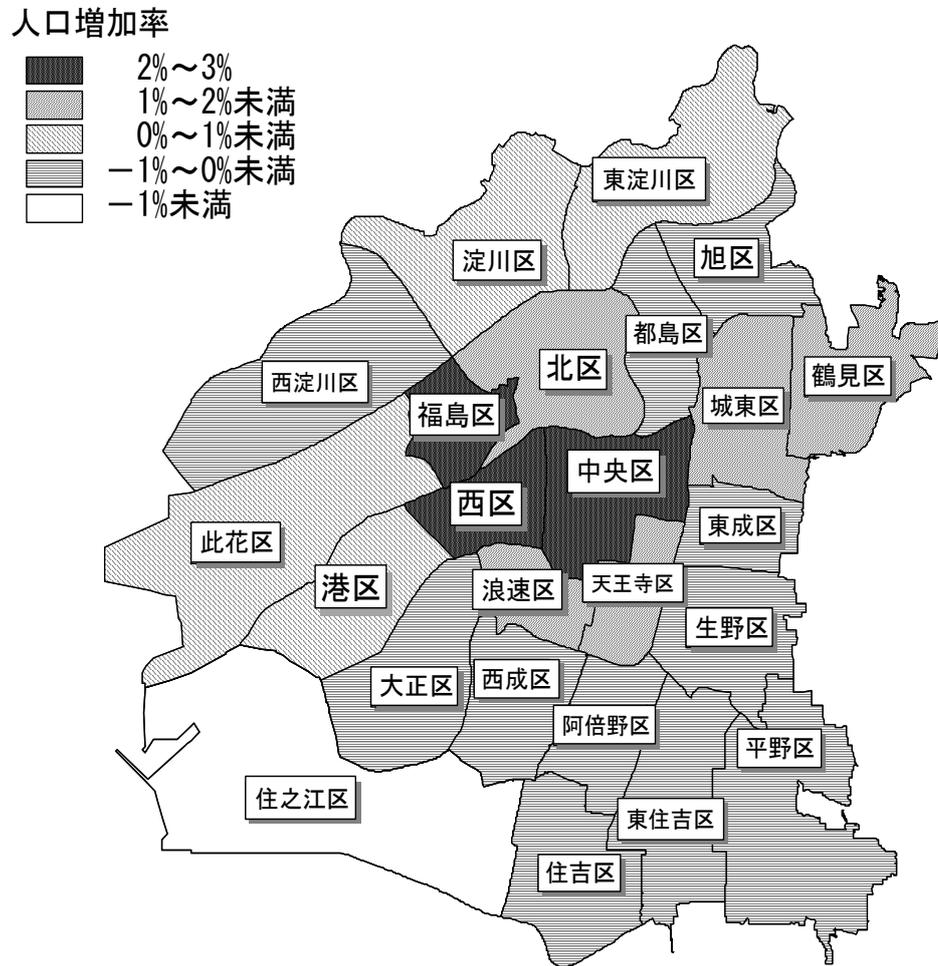
表4-3 人口減少数上位7区

順位	平成17年～18年		平成18年～19年		平成19年～20年	
	区名	減少数(人)	区名	減少数(人)	区名	増加数(人)
1	生野区	-1,549	西成区	-1,190	住之江区	-1,455
2	西成区	-1,220	生野区	-918	生野区	-1,109
3	住之江区	-965	住吉区	-651	住吉区	-812
4	東淀川区	-651	大正区	-645	大正区	-664
5	旭区	-576	東住吉区	-521	西成区	-556
6	大正区	-465	旭区	-354	旭区	-542
7	住吉区	-451	住之江区	-315	都島区	-179

表4-4 人口増加率上位7区

順位	平成17年～18年		平成18年～19年		平成19年～20年	
	区名	増加率(%)	区名	増加率(%)	区名	増加率(%)
1	中央区	3.7	中央区	3.0	福島区	2.7
2	浪速区	3.3	西区	2.3	中央区	2.6
3	西区	2.9	浪速区	1.7	西区	2.6
4	北区	2.1	都島区	1.5	天王寺区	1.9
5	都島区	0.9	天王寺区	1.3	浪速区	1.7
6	天王寺区	0.9	鶴見区	1.3	北区	1.5
7	福島区	0.6	北区	1.1	城東区	1.3

図4-2 区別人口増加率の分布



5 区別世帯数

市域中心部で高い増加率

平成20年の世帯数を区別にみると、東淀川区が9万1973世帯と最も多く、次いで淀川区が8万8844世帯、平野区が8万6791世帯、城東区が7万4931世帯、西成区が7万4297世帯、と続いている。世帯数が最も少ない区は此花区の2万9142世帯で、次いで大正区が3万1115世帯、福島区が3万1819世帯と続いている。(表5-1、5-2)

この1年間の世帯数の増加数を区別にみると、西区が1705世帯と最も多く、次いで北区が1555世帯、城東区が1483世帯、淀川区が1457世帯、中央区が1409世帯など22区で増加となっている。世帯数が減少しているのは西成区、住之江区のみとなっている。(表5-1)

世帯数の増加率では、西区が3.8%と最も高く、次いで福島区が3.4%、中央区が3.2%、天王寺区が3.0%など、市域中心部で高い増加率となっている。(表5-1)

1世帯当たり人員をみると、鶴見区が2.47人と最も多く、次いで平野区が2.31人、大正区が2.30人、住之江区、西淀川区が2.29人と続いている。一方、最も少ない区は浪速区の1.55人であり、次いで中央区が1.62人、西区が1.69人と続いている。(表5-3、図5-1)

表5-1 区別世帯数

	世帯数(世帯)		対前年(平成19年)		1世帯当たり 人員(人)
	平成20年	19年	増減数(世帯)	増減率(%)	平成20年
大阪市	1,289,388	1,273,480	15,908	1.2	2.06
北区	59,377	57,822	1,555	2.7	1.77
都島区	48,769	48,392	377	0.8	2.09
福島区	31,819	30,778	1,041	3.4	2.00
此花区	29,142	28,811	331	1.1	2.23
中央区	45,349	43,940	1,409	3.2	1.62
西区	46,431	44,726	1,705	3.8	1.69
港区	39,255	38,723	532	1.4	2.13
大正区	31,115	31,106	9	0.0	2.30
天王寺区	32,838	31,884	954	3.0	2.03
浪速区	37,432	36,566	866	2.4	1.55
西淀川区	41,957	41,697	260	0.6	2.29
淀川区	88,844	87,387	1,457	1.7	1.92
東淀川区	91,973	91,124	849	0.9	1.93
東成区	37,714	37,239	475	1.3	2.09
生野区	62,669	62,349	320	0.5	2.15
旭区	44,188	44,008	180	0.4	2.12
城東区	74,931	73,448	1,483	2.0	2.20
鶴見区	44,677	43,938	739	1.7	2.47
阿倍野区	48,934	48,610	324	0.7	2.20
住之江区	55,758	55,885	-127	-0.2	2.29
住吉区	73,491	73,419	72	0.1	2.14
東住吉区	61,637	61,242	395	0.6	2.17
平野区	86,791	85,767	1,024	1.2	2.31
西成区	74,297	74,619	-322	-0.4	1.75

各年10月1日現在推計人口

6 人口異動（各々前年10月中から1年間の合計）

(1) 自然動態

4年連続の自然減少

平成20年の自然動態（出生と死亡の差）は1506人の減少となり、平成19年（1660人減）と比べると154人減少幅が縮小した。自然増加率（人口千対^註）は前年に続きマイナス0.6%となっている。

平成7年以降の自然動態は、平成16年までは増加が続いていたが、増加幅は縮小傾向にあり、平成17年に減少に転じた後、4年連続の減少となっている。（表6-(1)-1）

自然増加数を区別にみると、鶴見区が638人と最も多く、次いで西区が374人、城東区が248人、東淀川区が158人、西淀川区が150人など、12区で増加となっている。

一方、自然減少数では、西成区が1677人と最も多く、次いで生野区が636人、旭区が276人、阿倍野区が252人、大正区が224人と続いている。（表6-(1)-2）

自然増加率では、鶴見区が5.9%と最も高く、次いで西区が4.9%、中央区が2.1%と続いている。

自然減少率では、西成区が12.9%と最も高く、次いで生野区が4.7%、大正区が3.1%と続いている。（6-(1)-2、図6-(1)）

※注：前年10月1日現在人口1000人に対する比率

表6-(1)-1 自然動態の推移（平成7年～平成20年）

年次	自然増加			出生			死亡		
	増加数 (人)	対前年 (人)	自然 増加率 (%)	出生数 (人)	対前年 (人)	出生率	死亡数 (人)	対前年 (人)	死亡率
平成7年	4,016	-533	1.6	25,589	50	9.9	21,573	583	8.3
8年	4,703	687	1.8	25,709	120	9.9	21,006	-567	8.1
9年	4,406	-297	1.7	25,809	100	9.9	21,403	397	8.2
10年	4,146	-260	1.6	25,841	32	10.0	21,695	292	8.4
11年	3,144	-1,002	1.2	25,470	-371	9.8	22,326	631	8.6
12年	2,399	-745	0.9	24,566	-904	9.5	22,167	-159	8.5
13年	2,825	426	1.1	24,843	277	9.6	22,018	-149	8.5
14年	2,625	-200	1.0	24,808	-35	9.5	22,183	165	8.5
15年	646	-1,979	0.2	23,929	-879	9.2	23,283	1,100	8.9
16年	199	-447	0.1	23,681	-248	9.0	23,482	199	9.0
17年	-1,878	-2,077	-0.7	22,706	-975	8.7	24,584	1,102	9.4
18年	-1,412	466	-0.5	22,823	117	8.7	24,235	-349	9.2
19年	-1,660	-248	-0.6	23,568	745	8.9	25,228	993	9.6
20年	-1,506	154	-0.6	24,028	460	9.1	25,534	306	9.7

1 自然増加数、出生数、死亡数は前年10月中から当年9月中の合計である。

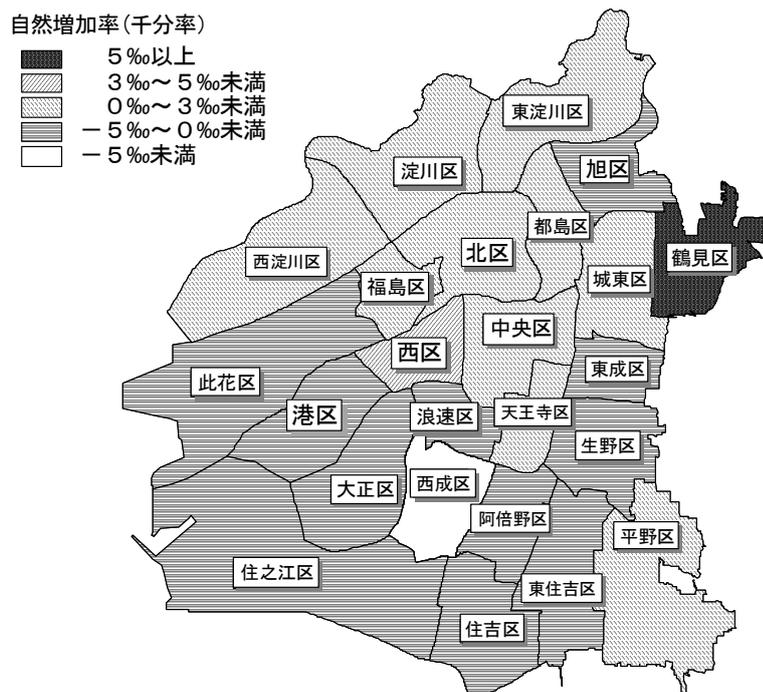
2 自然増加率、出生率、死亡率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率である。

表6-(1)-2 区別自然動態 (平成20年)

区名	自然増加数 (人)	自然増加率 (‰)	出生数 (人)	出生率	死亡数 (人)	死亡率
大阪市	-1,506	-0.6	24,028	9.1	25,534	9.7
北区	62	0.6	873	8.4	811	7.8
都島区	129	1.3	924	9.0	795	7.8
福島区	84	1.4	642	10.4	558	9.0
此花区	-89	-1.4	553	8.6	642	9.9
中央区	147	2.1	702	9.8	555	7.8
西区	374	4.9	863	11.3	489	6.4
港区	-11	-0.1	829	9.9	840	10.1
大正区	-224	-3.1	579	8.0	803	11.1
天王寺区	34	0.5	576	8.8	542	8.3
浪速区	-128	-2.2	440	7.7	568	10.0
西淀川区	150	1.6	996	10.4	846	8.8
淀川区	130	0.8	1,591	9.3	1,461	8.6
東淀川区	158	0.9	1,622	9.1	1,464	8.2
東成区	-114	-1.4	701	8.9	815	10.3
生野区	-636	-4.7	975	7.2	1,611	11.8
旭区	-276	-2.9	799	8.5	1,075	11.4
城東区	248	1.5	1,709	10.5	1,461	9.0
鶴見区	638	5.9	1,469	13.5	831	7.6
阿倍野区	-252	-2.3	808	7.5	1,060	9.8
住之江区	-80	-0.6	1,113	8.6	1,193	9.2
住吉区	-90	-0.6	1,461	9.3	1,551	9.8
東住吉区	-212	-1.6	1,130	8.4	1,342	10.0
平野区	129	0.6	2,008	10.0	1,879	9.4
西成区	-1,677	-12.9	665	5.1	2,342	18.0

- 1 自然増加数、出生数、死亡数は平成19年10月中から平成20年9月中の合計である。
- 2 自然増加率、出生率、死亡率は平成19年10月1日現在推計人口1000人に対する比率である。

図6-(1) 区別自然増加率の分布



ア 出 生

平成 20 年の出生数は 2 万 4028 人で、平成 19 年（2 万 3568 人）と比べると 460 人の増加となっている。出生率（人口千対）は 9.1（前年は 8.9）と 3 年連続の上昇となった。

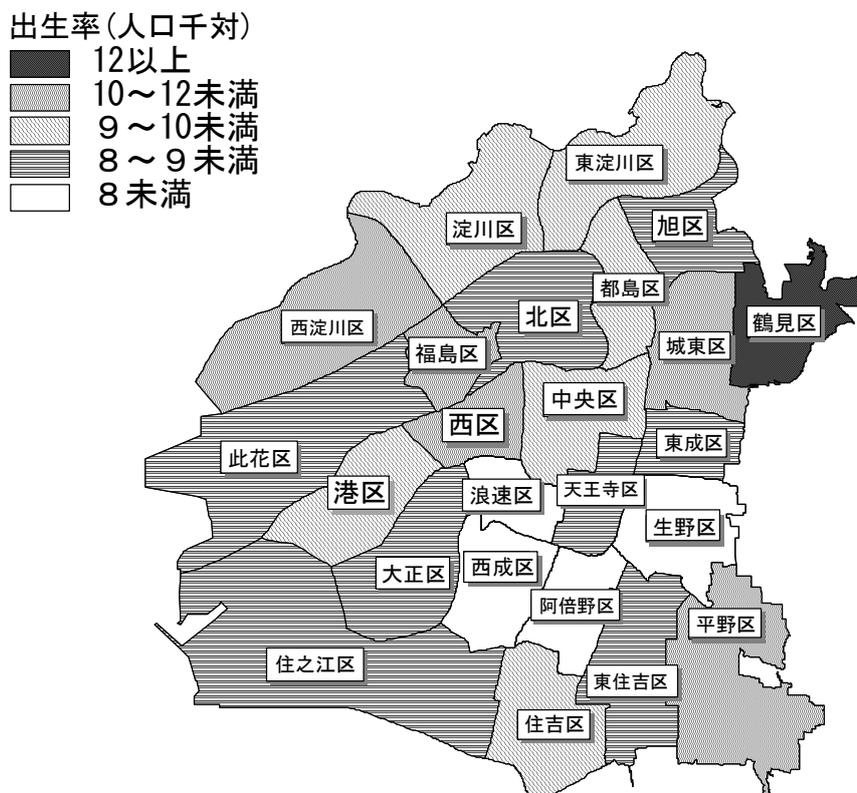
平成 7 年以降の出生数は、平成 11 年までは 2 万 5000 人台で推移していたが、その後概ね減少傾向で推移し、平成 17 年には 2 万 2706 人となった。平成 18 年に 5 年ぶりに増加に転じ、平成 20 年には前年比 460 人増と、3 年連続増加となっている。

出生数を区別にみると、平野区が 2008 人と最も多く、次いで城東区が 1709 人、東淀川区が 1622 人、淀川区が 1591 人、鶴見区が 1469 人と続いている。

出生率では、鶴見区が 13.5 と最も高く、次いで西区が 11.3、城東区が 10.5、西淀川区、福島区が 10.4 と続いている。

出生数が最も少ない区は浪速区の 440 人である。出生率では、西成区が 5.1 と最も低くなっている。（図 6 - ア、表 6 - (1) - 2）

図 6 - ア 区別出生率の分布



(2) 社会動態

9年連続の社会増加

平成20年の社会動態（転入と転出の差）は9800人の増加となり、平成19年（1万45人増）と比べると245人増加幅が縮小した。社会増加率（人口千対）は3.7‰（前年は3.8‰）となっている。

平成7年以降の社会動態は、平成11年までは減少が続いていたが、平成12年に増加に転じ、平成13年から18年までは6000人台後半から8000人前後の増加で推移し、平成19年には増加数が1万人を上回り、平成20年も1万人近くの増加となっている。（表6-（2）-1）

社会増加数を区別にみると、城東区が1812人と最も多く、次いで中央区が1737人、福島区が1610人、西区が1581人、北区が1496人など、市域中心部を中心に15区で増加となっている。

社会減少数では、住之江区が1375人と最も多く、次いで住吉区が722人、生野区が473人、大正区が440人、都島区が308人と続いている。（表6-（2）-2）

社会増加率では、福島区が26.0‰と最も高く、次いで中央区が24.3‰、西区が20.7‰、浪速区が19.5‰、天王寺区が18.6‰など、社会増加数と同様に市域中心部で高い増加率となっている。

社会減少率では、住之江区が10.6‰と最も高く、次いで大正区が6.1‰、住吉区が4.6‰、生野区が3.5‰、都島区が3.0‰と続いている。（表6-（2）-2、図6-（2））

表6-（2）-1 社会動態の推移（平成7年～平成20年）

年次	社会増加			転入			転出		
	増加数 (人)	対前年 (人)	社会 増加率 (‰)	転入数 (人)	対前年 (人)	転入率 (‰)	転出数 (人)	対前年 (人)	転出率 (‰)
平成7年	-193	19,303	-0.1	184,516	16,267	71.2	184,709	-3,036	71.3
8年	-7,482	-7,289	-2.9	180,116	-4,400	69.2	187,598	2,889	72.1
9年	-8,374	-892	-3.2	179,846	-270	69.2	188,220	622	72.4
10年	-4,786	3,588	-1.8	166,340	-13,506	64.1	171,126	-17,094	65.9
11年	-4,677	109	-1.8	176,076	9,736	67.8	180,753	9,627	69.6
12年	804	5,481	0.3	180,150	4,074	69.4	179,346	-1,407	69.1
13年	7,690	6,886	3.0	186,025	5,875	71.6	178,335	-1,011	68.6
14年	7,421	-269	2.8	186,909	884	71.7	179,488	1,153	68.8
15年	6,654	-767	2.5	183,836	-3,073	70.3	177,182	-2,306	67.8
16年	6,851	197	2.6	182,917	-919	69.8	176,066	-1,116	67.2
17年	8,144	1,293	3.1	179,006	-3,911	68.2	170,862	-5,204	65.1
18年	8,021	-123	3.1	178,432	-574	67.9	170,411	-451	64.8
19年	10,045	2,024	3.8	180,072	1,640	68.3	170,027	-384	64.5
20年	9,800	-245	3.7	179,069	-1,003	67.7	169,269	-758	64.0

1 社会増加数、転入数、転出数は前年10月中から当年9月中の合計である。

2 社会増加率、転入率、転出率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率である。

ウ 転 入

平成 20 年の転入数は 17 万 9069 人で、平成 19 年（18 万 72 人）と比べると 1003 人の減少となっている。転入率（人口千対）は 67.7‰（前年は 68.3‰）となっている。

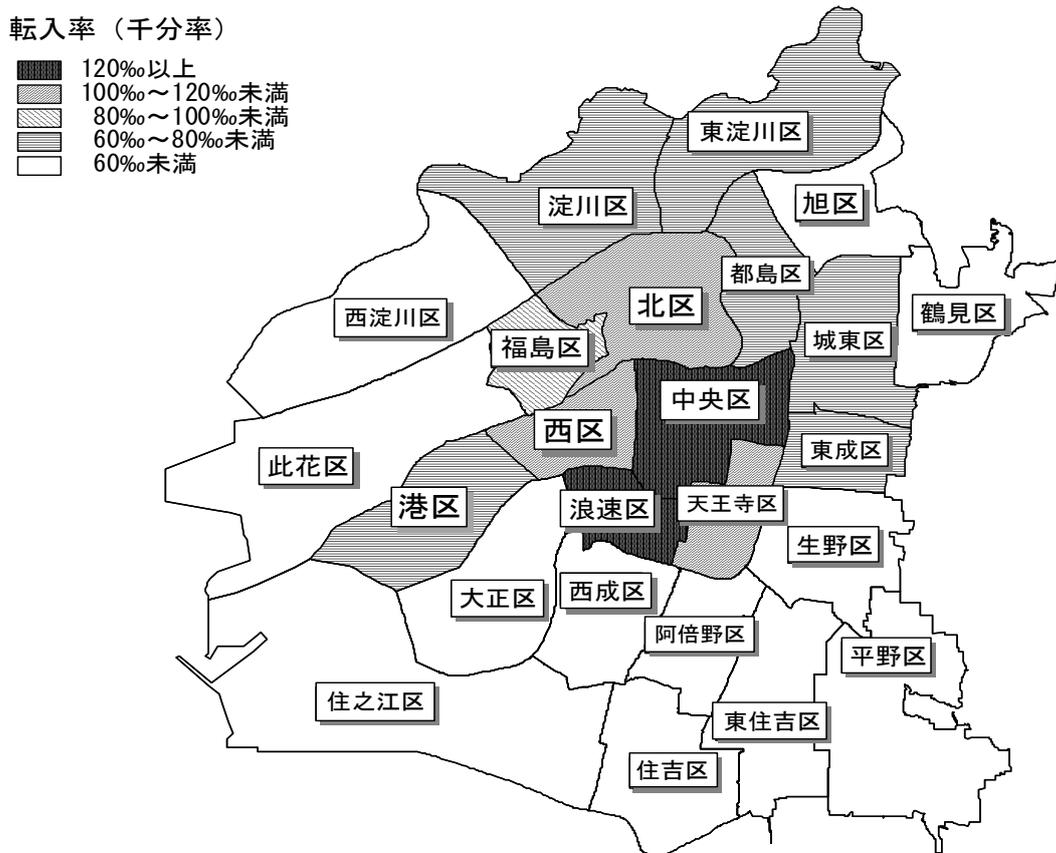
平成 7 年以降の転入数は、平成 10 年の 16 万人台を除き 18 万人前後で推移している。（表 6 - (2) - 1）

転入数を区別にみると、淀川区が 1 万 3030 人と最も多く、次いで東淀川区が 1 万 1687 人、中央区が 1 万 1582 人、城東区が 1 万 1179 人、北区が 1 万 1173 人と続いている。

転入率では、中央区が 162.3‰と最も高く、次いで浪速区が 153.3‰、西区が 115.1‰、北区が 107.8‰、天王寺区が 100.4‰と続いている。

転入数が最も少ない区は大正区の 2430 人である。転入率でも、大正区が 33.7‰と最も低くなっている。（図 6 - ウ、表 6 - (2) - 2）

図 6 - ウ 区別転入率の分布



エ 転 出

平成 20 年の転出数は 16 万 9269 人で、平成 19 年（17 万 27 人）と比べると 758 人の減少となっている。転出率（人口千対）は 64.0‰（前年は 64.5‰）と平成 15 年以降毎年低下している。

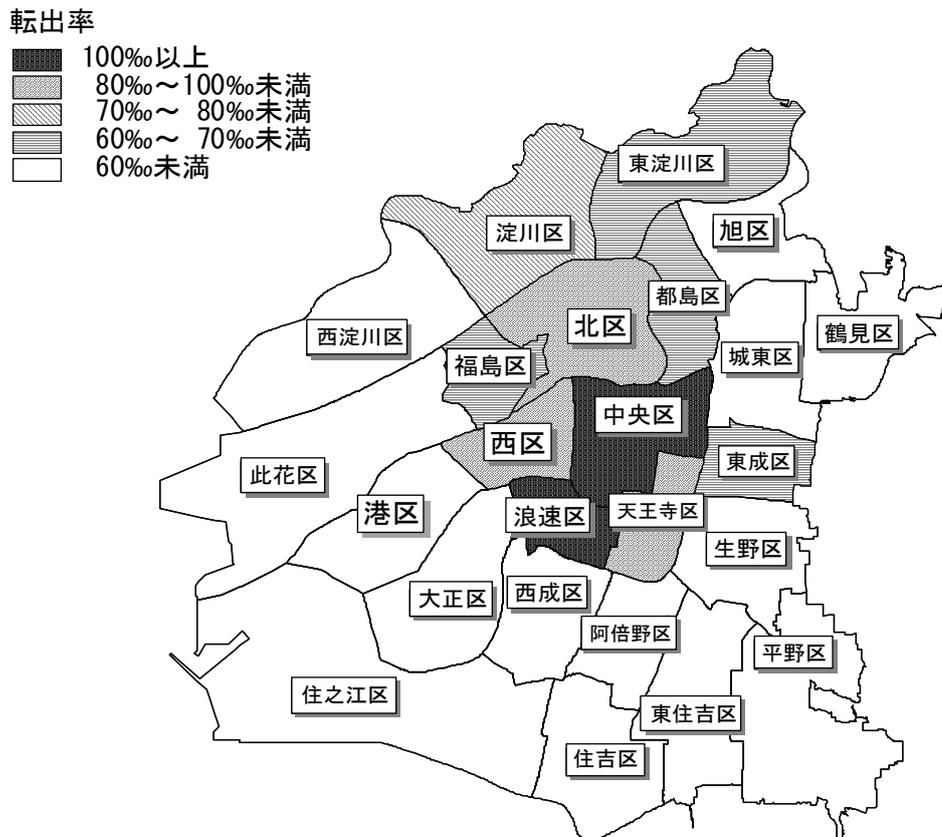
平成 7 年以降の転出数は、平成 9 年までは 18 万人台であったが、平成 10 年以降は減少傾向にあり、平成 20 年は 17 万人を下回った。（表 6 - (2) - 1）

転出数を区別にみると、淀川区が 1 万 2427 人と最も多く、次いで東淀川区が 1 万 1777 人、中央区が 9845 人、北区が 9677 人、城東区が 9367 人と続いている。

転出率では、中央区が 137.9‰と最も高く、次いで浪速区が 133.8‰、西区が 94.4‰、北区が 93.4‰、天王寺区が 81.8‰と続いている。

転出数が最も少ない区は大正区の 2870 人である。転出率においても、大正区が 39.8‰と最も低くなっている。（図 6 - エ、表 6 - (2) - 2）

図 6 - エ 区別転出率の分布



7 年齢別推計

(1) 年齢（3区分）別人口

平成20年の人口について年齢（3区分）別構成比をみると、年少人口（15歳未満人口）は11.8%、生産年齢人口（15～64歳人口）は64.9%、老年人口（65歳以上人口）は22.0%となっている。

これを平成17年国勢調査以降で見ると、年少人口及び生産年齢人口は平成18年以降割合が低下しているのに対し、老年人口は18年以降上昇している。この3年間で生産年齢人口の割合の低下幅、老年人口の割合の上昇幅が大きく、年々高齢化が進行している。（表7-（1））

表7-（1） 年齢（3区分）別人口の推移（平成17年～20年）

年次	人 口 (人)					構 成 比 (%)				
	総数 1)	0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上	総数 1)	0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上
平成17年	2,628,811	315,143	1,749,851	529,692	218,977	100.0	12.0	66.6	20.1	8.3
18年	2,635,420	313,633	1,737,965	549,697	230,532	100.0	11.9	65.9	20.9	8.7
19年	2,643,805	312,966	1,728,334	568,380	242,280	100.0	11.8	65.4	21.5	9.2
20年	2,652,099	312,832	1,721,530	583,612	254,125	100.0	11.8	64.9	22.0	9.6

平成17年は国勢調査結果

平成18、19、20年は10月1日現在推計人口

1) 人口総数は年齢「不詳」を含むため、年齢階級別の人口の合計と一致しない。

(2) 年齢（5歳階級）別社会動態（平成20年）

平成20年の社会動態を年齢（5歳階級）別にみると、15歳から29歳までの各階級で1000人を超える社会増加となっている。特に20歳代での転入数が多く、「20～24歳」では社会増加数が非常に大きい。しかし、30歳代及び0歳から9歳までの階級では社会減少となっており、「0～4歳」の社会減少数が最も大きくなっている。（図7-（2））

